

「板橋区かわまちづくり基本計画」(原案) について

板橋区かわまちづくり協議会
資 料 2 - 1
令 和 8 年 1 月 9 日
かわまちづくり担当部
かわまちづくり計画担当課

1 目的

板橋区かわまちづくり基本構想の具体化及び板橋区かわまちづくり計画を推進するため、区のかわまちづくりの基本的な考え方や整備・取組の方向性を示す「板橋区かわまちづくり基本計画」を策定する。

2 対象エリアとゾーニング計画



3 主な課題と方向性

【主な課題】

課題①
新たな利用者層を獲得するとともに、広大なオープンスペースを活用し、河川空間を訪れる人々を増やしていく必要がある。

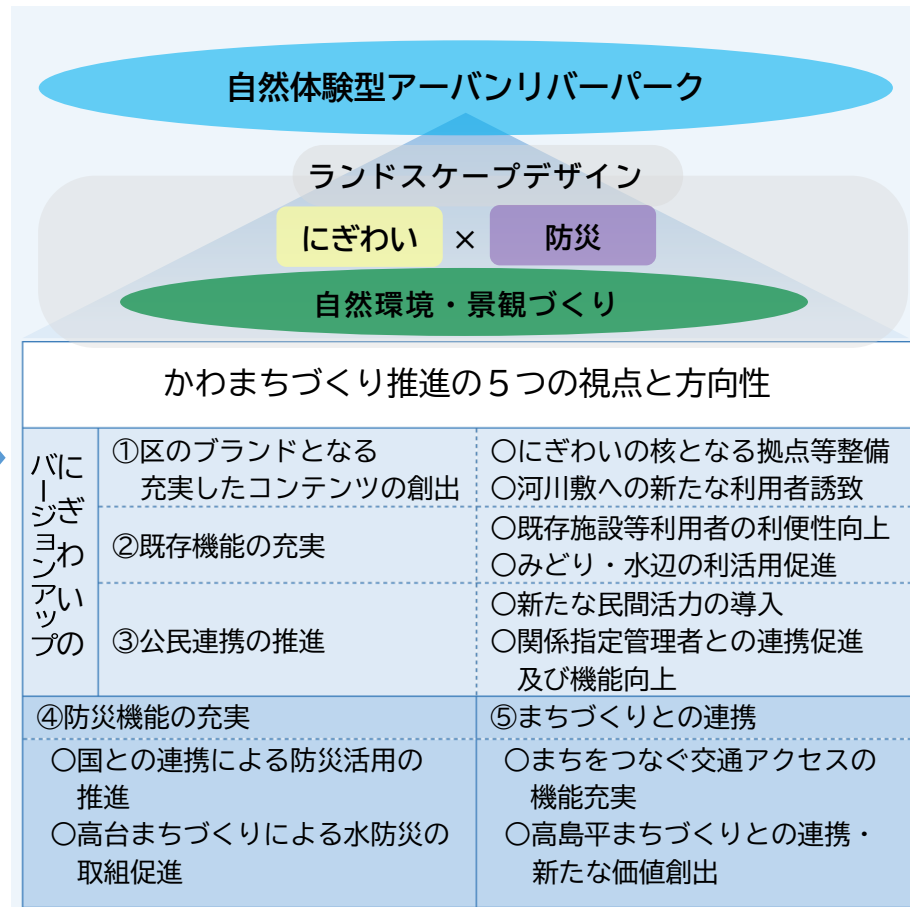
課題②
既存機能の充実や、特徴であるみどりに恵まれた荒川河川敷の自然環境の維持・充実を図っていく必要がある。

課題③
行政の取組促進や工夫とともに民間事業者のノウハウや資金等を活用し、インパクトのある事業展開や安定した運営が必要である。

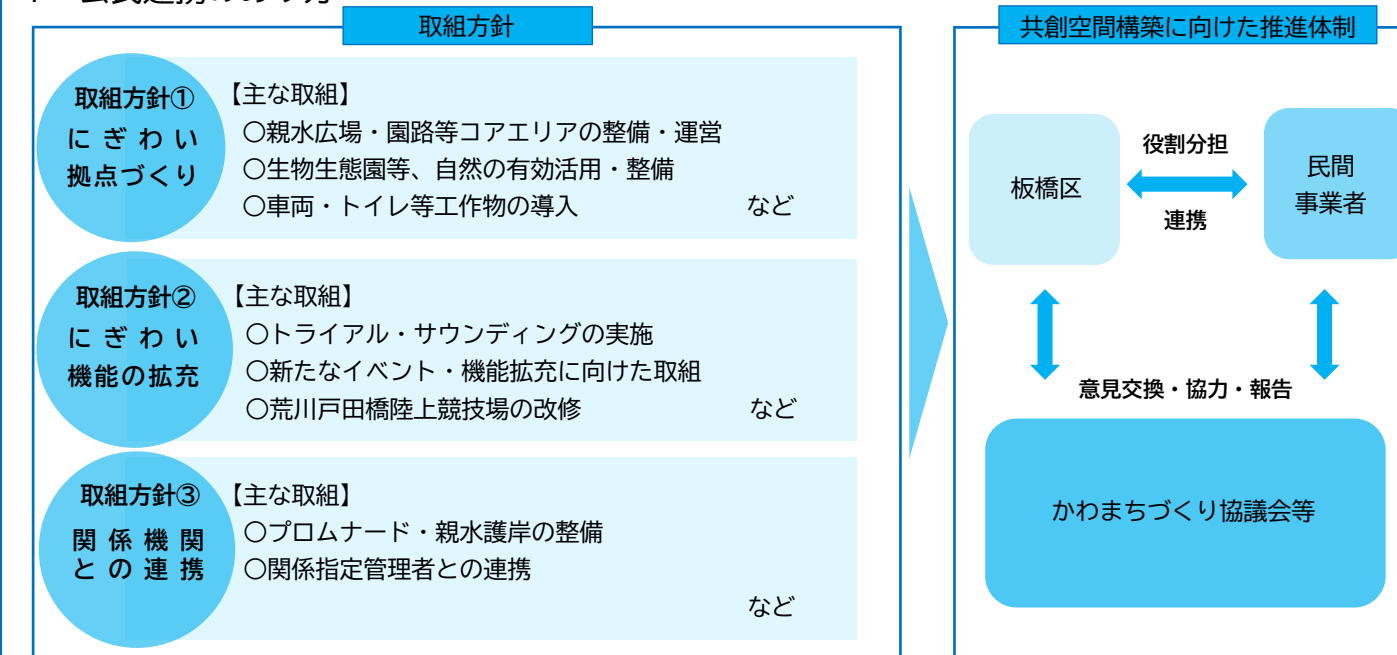
課題④
震災時の活用や、水害対策の取組などが進んでいる一方で、激甚災害が増加していることなどから、より一層の防災機能の充実を図る必要がある。

課題⑤
周辺エリアと連携し、課題解決とともに特徴を活かした将来的なまちづくりに貢献する取組を進めていく必要がある。

【かわまちづくりの方向性】



4 公民連携のあり方



5 整備・取組のスケジュール・事業量

取組方針	整備・取組内容	R 8	R 9	R 10	R 11	R 12	R 13 以降
①にぎわい拠点づくり	コアエリアの整備・運営	調査・基本設計	事業者公募	詳細設計・整備	管理・運営		
	車両・トイレ等工作物の導入	準備	製作	活用			
②にぎわい機能拡充	ソフト事業充実	トライアル・サウンディング	新イベント機能拡充				
	荒川戸田橋陸上競技場の改修	整備実施					
③関係機関との連携	プロムナード等の整備	ゾーンごとに整備実施（国）					
	関連指定管理者の指定期間	2年目	3年目	4年目	5年目再選定	再1年目	再2年目

6 目標値 ★令和8年度のにぎわい拠点づくりの準備やにぎわい機能拡充の取組結果の分析等を踏まえ、直接成果及び中間成果の指標や目標値を設定。

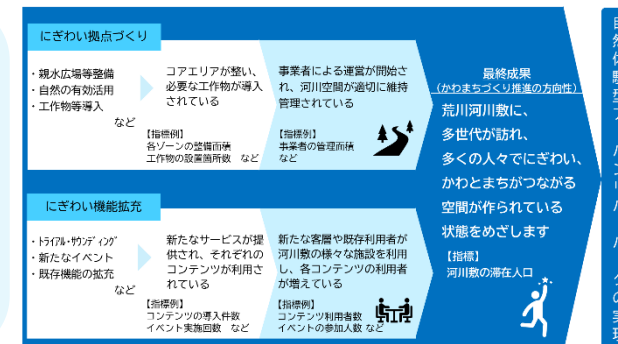
河川敷の滞在人口※

※第2期整備エリアの草地広場周辺から戸田橋（荒川戸田橋緑地サッカー場含む）の区間に1時間以上留まっている人々

令和6年度
961,000人

令和12年度
991,000人

令和17年度
1,060,000人



【各ゾーンの整備・取組の方向性】

全体エリア

○めざすべきゾーニング像：自然豊かな空間を整え、各ゾーンの特徴を活かした取組を展開し、河川空間とまち空間の融合をめざします。

●整備・取組の方向性：プロムナード等の整備やみどりの利活用を進めるとともに、レクリエーション等導入により、連鎖的な水辺空間を創出します。

【主な取組】

- プロムナード・親水護岸の整備
- 環境、植生等と調和した景観づくり
- 災害時を想定した工作物等の導入・活用
- エリア内外アクセス改善に向けた機能導入

I スポーツ・カルチャー発信ゾーン

○めざすべきゾーニング像

スポーツ機能の拡充や様々なイベントを開催することで、多くの人々が訪れ、活気あふれる場をめざします。

●整備・取組の方向性

荒川戸田橋陸上競技場の改修や自然を活かした広大なオープンスペースを設け、大規模イベント等の拠点として活用を図ります。



【主な取組】

- 広大な草地広場や戸田橋陸上競技場を活用し、大小様々なイベントを実施します。
- イベントや通常時でも子どもが楽しめる空間づくりを進めます。
- 荒川戸田橋陸上競技場を改修し、陸上やサッカー利用の充実を図るとともに、新たにラグビー機能を設けます。

III 自然・環境ゾーン

○めざすべきゾーニング像

豊富な緑や河川環境、多様な生物の生息地である自然環境を整え、みどりあふれる場をめざします。

●整備・取組の方向性

生物生態園のワンド等の地形を活かすとともに、自然環境の機能向上を図ることで、みどりの拠点となる空間づくりを進めます。



【主な取組】

- 生物生態園を活用し、自然に触れ合え学べる機会の充実を図ります。
- 多様な生物の保全やみどりの充実に向けて、適切な整備や維持管理を実施します。
- 河川敷の資源である水辺空間及び豊富なみどりの利活用に向けて、生物生態園のあり方を検討します。

II 水辺のにぎわい・アウトドアゾーン

○めざすべきゾーニング像

水辺空間の利活用や屋外体験等のレクリエーションにより、誰もが楽しめ、憩える場をめざします。

●整備・取組の方向性

親水広場の整備やカフェ・レストラン機能を設けるとともに、サイクルパークや自然地の利活用を見据え、「コアエリア」としてにぎわいの拠点づくりを進めます。



【主な取組】

- 中規模自然地を活用し、みどりあふれる空間でのバーベキュー機能拡充やキャンプ等の屋外レクリエーションを導入します。
- 親水広場や親水護岸を整備し、水際・水面活用を推進します。
- カフェ・レストラン等の飲食機能の他、ゾーン全体の充実に向け、電気・水道を設置するとともに、サイクルパークの利活用を検討します。

IV スポーツ・アクティビティゾーン

○めざすべきゾーニング像

新たなアクティビティの提供やスポーツ利用者等の利便性向上を図り、たくさんの人々でにぎわう場をめざします。

●整備・取組の方向性

マウンテンバイクコース等の整備やキッチンカーの配置・トイレの充実など、かわまちづくりの玄関口となる駐車場の充実を図ります。



【主な取組】

- 来場者数確保に向けて、駐車場拡充やたくさんの人々が集える場を提供します。
- 多様なスポーツが実施できるフィールドを整備します。
- 駐車場からのアクセスを活かし、多世代が訪れることができるアクティビティ機能を設けます。